

「日本3.0」

Vol.7

小泉進次郎は40歳で首相となるか

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

日本が2020年前後に「日本3.0」へとシフトできるか、これまでの戦後体制から脱却できるか。そのカギを握るのが「政界再編」です。

自民党総裁任期を延長したことにより、2021年までは、安倍政権が続くことは濃厚です。ただし、その後を担うリーダーたる人材がいまません。

最近、安倍首相、岸田文雄外務大臣、小泉進次郎氏の3人が一堂に会するパーティーに出席する機会がありました。

その席で、安倍首相と岸田外務大臣がスピーチを行ったのですが、私が驚いたのは、二人の言葉の力の弱さです。

安倍首相は、朝日新聞やトランプのネタで笑いはとっていたのですが、早口かつ滑舌が悪く、話にも中身がありません。岸田外務大臣に至っては、話あまりに退屈で、会場に集まった数百人の客の中で、真剣に聞いている人はわずかでした。

もちろん、政治家の能力はスピーチだけで測れるものではありません。しかし、それにしても、この二人のリーダーは、公の場で人を魅了する力が世界水準に比べて低すぎます。

翻って、小泉進次郎氏の語る力は本物です。つい先日、イベントで小泉氏に60分インタビューする機会がありました。戦術と意志とユーモアあふれる語りっぷりに、会場は大いに沸きました。

その際、「2021年に小泉さんは40歳になりますが、安倍首相の次に首相を目指しますか」と聞いたところ、「国

民の方からやらせてみたいと思わせる人間になりたい」とまんざらでもない答えが返ってきました。

安倍政権以後、自民党は求心力を失い弱体化するおそれがあります。対抗軸となるべき民進党も復活の芽はないでしょう。というより、2020年まで持続しているかどうかすら怪しい。

自民党の大幅な若返りか、自民党の改革派、民進党の良識派、改革派首長などが合流して、新党を結成するか。このいずれかが起きないかぎり、日本政治はデッドロックに陥るはずはです。

40歳での小泉首相誕生。そのシナリオについて、大半の人は「さすがにそれはないだろう」と否定します。

ただし、その確率は結構高いのではないかと私は思っています。政府のトップが小泉氏、東京のトップが小池百合子氏となり、二人がうまく連携し、橋下徹氏なども合流すれば、「本当に日本が変わる」という空気が盛り上がるのではないのでしょうか。



Profile

NewsPicks編集長

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。リニューアルから4カ月で同サイトをビジネス誌系サイトNo.1に導く。2014年7月から経済ニュースサイト「NewsPicks」の編集長を務める。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか」がある。